

## 4 企業会計収入支出予算の概要

企業会計は、地方公営企業法に定められた諸事業と採算性のある事業について、条例の定めるところにより設置するものですが、本県では、公共の福祉を増進するため、病院、水道、工業用水道および電気の4事業の経営を行っています。

本年度の企業会計予算の総額は、第15表のとおりで、前年度の649億5,104万3千円に比べ、66億6,011万円6千円、10.3%の増となっています。

第15表 企業会計予算の状況

(単位：千円、%)

会計名	平成18年度 当初予算額 (A)	平成17年度 当初予算額 (B)	比較		
			増 (A)	減 (B)	伸び率 (A) (B) / (B)
病院事業	23,219,136	21,779,885	1,439,251		6.6
水道事業	30,441,483	24,454,650	5,986,833		24.5
工業用水道事業	13,180,806	12,367,471	813,335		6.6
電気事業	4,769,734	6,349,037	△1,579,303		△24.9
合計	71,611,159	64,951,043	6,660,116		10.3

企業会計収入支出予算について、その概要を説明します。

### (1) 病院事業会計

平成16年度から18年度までの3カ年の県立病院のビジョンと経営方針及び具体的な行動に向けた取組を示す「三重県病院事業中期経営計画」を着実に実践することにより、県立病院としての役割・機能を果たし、県民から求められる良質な医療を継続的に安定供給できるように努めます。

このため、平成14年度から導入している新しいマネジメントシステム（バランス・スコアカード）を一層活用し、全職員参画型の経営を推進することで、病院ごとの経営の自立化を図り、目標達成に努めます。

ア. 業務の予定量

(ア) 病床数 1,286床

(イ) 患者数

	年 間	1 日平均
入院患者数	411,355 人	1,127 人
外来患者数	421,086 人	1,719 人

イ. 収益的収支 収入 19,071,086千円 資本的収支 収入 3,347,754千円  
支出 18,951,640千円 支出 4,267,496千円

平成18年度の主要事業としましては、人材育成の視点から、県外の看護系大学等の在学者で、将来的に県立病院において指導的な役割を担う意欲のある学生に対し、修学資金を貸与する事

業を始めます。

また、志摩病院においては、現在整備を進めている外来診療棟の供用開始（H19.8予定）に合わせて、患者サービス及び医療の質向上を図るため、医療情報システム（オーダーリングシステム及び電子カルテシステム等）を構築します。

収益的収入は、入院収益、外来収益などの医業収益157億9,075万7千円、他会計補助金、負担金などの医業外収益32億8,032万9千円です。

一方、収益的支出は、職員給与費99億5,847万3千円、薬品費などの材料費35億7,621万7千円、事業運営経費27億9,755万9千円、施設・器械備品などの減価償却費13億6,205万7千円等の医業費用177億8,777万7千円、支払利息などの医業外費用10億2,895万9千円です。以上の結果、収支差引で、1億1,944万6千円の当期純利益を計上しております。

次に、資本的収入は、県費負担金10億875万4千円、企業債23億3,900万円です。

一方、資本的支出は、志摩病院の外来診療棟建築工事等のための病院増改築工事費で24億8,653万9千円、各病院の医療機器購入など資産購入費3億2,819万9千円、企業債償還金13億3,855万8千円、投資有価証券購入費1億100万円及び看護師修学資金貸与費1,320万円です。

## (2) 水道事業会計

水道事業は、津市、松阪市を対象とした北中勢水道（中勢系：施設能力1日最大給水量140,216m<sup>3</sup>）、四日市市、桑名市及び鈴鹿市を含む3市4町を対象とした北中勢水道（北勢系：施設能力1日最大給水量137,700m<sup>3</sup>）、伊勢市、松阪市、鳥羽市及び志摩市を含む4市4町を対象とした南勢志摩水道（施設能力1日最大給水量169,150m<sup>3</sup>）による給水を行い、上水の安定した供給に努めています。

また、北勢地域の水需要に対応するため、長良川河口堰を水源とした北勢広域水道拡張事業を、また、伊賀地域の水需要に対応するため、川上ダムを水源とした伊賀広域水道建設事業をそれぞれ実施します。

### ア. 業務の予定量

年間総給水量 76,990,098m<sup>3</sup>

1日平均給水量 210,932m<sup>3</sup>

イ. 収益的収支	収入	11,811,322千円	資本的収支	収入	13,928,182千円
	支出	10,771,363千円		支出	19,670,120千円

収益的収入は、給水収益111億4,004万7千円とその他営業収益を合わせた営業収益111億4,436万3千円及び一般会計補助金5億6,885万1千円等の営業外収益6億6,185万5千円が主なものです。

収益的支出は、人件費、修繕費、減価償却費等の営業費用82億369万8千円と支払利息等の営業外費用25億6,566万5千円が主なものです。以上の結果、収支差引10億3,995万9千円の利益を計上しました。

次に、資本的収入は、伊賀広域水道建設事業等に充当する企業債86億4,400万円や一般会計出資金34億9,816万2千円及び国庫補助金17億6,500万円が主なものです。

資本的支出は、伊賀広域水道建設事業等の建設改良費80億3,892万6千円と企業債等の償還金116億3,119万4千円です。

#### ウ. 主な建設改良計画

建設改良事業としては、既設の北勢水道の改良事業のほか、北勢広域水道拡張事業、伊賀広域水道建設事業を実施することになっています。

#### 主な建設改良事業

(単位：千円)

事業名	計画年度	総事業費	うち本年度 事業費	備考
業務設備改良工事	H18	1,598,144	1,598,144	既設設備の改良
北勢水道改良事業	H18	693,855	693,855	既設施設の改良
北勢広域水道拡張事業	H10～22	35,736,002	272,930	目標日量47,600m <sup>3</sup>
伊賀広域水道建設事業	H10～20	27,690,786	5,149,982	目標日量28,750m <sup>3</sup>

### (3) 工業用水道事業会計

工業用水道事業は、北伊勢工業用水道（1日給水能力830,000m<sup>3</sup>）、中伊勢工業用水道（1日給水能力33,000m<sup>3</sup>）、松阪工業用水道（1日給水能力38,500m<sup>3</sup>）及び多度工業用水道（1日給水能力10,000m<sup>3</sup>）により、工業用水の供給をしています。

また、県下の工場に良質な工業用水を安定的に供給するため、的確な水処理や配水運用を行うとともに、北伊勢工業用水道事業等において、施設の計画的な改良や整備を行います。

#### ア. 業務の予定量

(ア) 給水会社数	88社
(イ) 年間総給水量	222,093,020m <sup>3</sup>
1日平均給水量	608,474m <sup>3</sup>

イ. 収益的収支	収入	6,477,078千円	資本的収支	収入	3,669,127千円
	支出	6,216,360千円		支出	6,964,446千円

収益的収入は、給水収益57億7,901万1千円とその他営業収益を合わせた営業収益64億5,685万2千円及び受託工事収益等の営業外収益2,022万6千円です。

収益的支出は、人件費、修繕費、減価償却費等の営業費用54億424万8千円と支払利息等の営業外費用8億1,011万2千円が主なものです。以上の結果、収支差引2億6,071万8千円の利益を計上しました。

次に資本的収入は、建設改良事業等に充当する企業債17億7,000万円や一般会計出資金15億

3,712万7千円及び国庫補助金3億4,200万円が主なものです。

資本的支出は、北伊勢工業用水道改良事業等の建設改良費44億2,903万3千円と企業債等の償還金25億3,541万3千円です。

#### ウ. 主な建設改良計画

建設改良事業としては、北伊勢工業用水道改良事業等を実施することとしています。

#### 主な建設改良事業

(単位：千円)

事業名	計画年度	総事業費	うち本年度 事業費	備考
業務設備改良工事	H18	237,472	237,472	既設設備の改良
北伊勢工業用水道改良事業	H18	2,052,536	2,052,536	既設施設の改良
多度工業用水道改良事業	H18～H26	839,270	286,329	既設施設の更新
鈴鹿工業用水道建設事業	H18～H20	5,500,000	1,081,000	目標日量 4,800m <sup>3</sup>

## (4) 電気事業会計

電気事業は、宮川第1、第2、第3、長、三瀬谷、青蓮寺、大和谷、蓮、青田及び比奈知の10発電所において水力発電を、三重ごみ固形燃料発電所においてRDF焼却・発電をそれぞれ行っています。

平成18年度は、平成16年の台風21号の影響により壊滅的な被害を受けた長発電所の発電設備を取り替えるとともに最大出力を増大させるなど、被災した水力発電所の復旧整備を進め、また、年間を通じて安定的にRDFを処理するために必要となる新たな貯蔵施設について引き続き整備を進めます。

#### ア. 業務の予定量

年間販売電力量 352,008,438kWh

イ. 収益的収支	収入	3,382,938千円	資本的収支	収入	311,769千円
	支出	3,614,957千円		支出	1,154,777千円

収益的収入は、電力料26億4,296万1千円等の営業収益26億4,510万4千円、RDF焼却・発電事業の附帯事業収益7億1,621万5千円及び受託事業収益1,805万1千円等の営業外収益2,161万9千円です。

収益的支出は、人件費、修繕費、減価償却費等の営業費用21億1,403万円、RDF焼却・発電事業の附帯事業費用11億140万9千円及び支払利息等の営業外費用3億9,751万8千円が主なものです。以上の結果、収支差引2億3,201万9千円の損失を計上しました。

次に、資本的収入は、長発電所改良事業等に充当する国庫補助金3,647万4千円と雑収入1億7,797万7千円、長期貸付金償還金9,731万8千円です。

資本的支出は、水力発電所災害復旧事業等の建設改良費5億4,282万4千円と企業債の償還金6億1,195万3千円です。

#### ウ. 主な建設改良計画

建設改良事業としては、既設の設備改良事業のほか、水力発電所災害復旧事業、川上発電所建設事業等を実施することとしています。

#### 主な建設改良事業

(単位：千円)

事業名	計画年度	総事業費	うち本年度 事業費	備考
水力発電所災害復旧事業	H16～19	1,350,765	399,488	長発電所 他
川上発電所建設事業	H11～20	1,678,000	4,374	最大出力1,200kW

#### 一口メモ

- 収益的収支…当該年度の企業の経営活動に伴い発生する収益（収入）とそれに対応する費用（支出）であって、収入は、サービスの提供の対価としての料金収入が主体であって、支出にはサービス提供に要する職員給与費、支払利息、建物等の固定資産の減価償却費等が計上されます。
- 資本的収支…住民に対するサービスの提供を維持するとともに、将来の利用増に対処して、経営規模の拡大を図るために要する諸施設の整備、拡充等の資産の取得に要する経費、施設の取得に要した企業債の元金償還金などの支出と資産の取得に要する企業債等の収入が計上されます。